



日本計算機統計学会

Japanese Society of Computational Statistics

NEWS LETTER

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F (公益)統計情報研究開発センター内
Tel/Fax: 03-3254-7580 E-mail: office@jcs.jp URL: http://www.jcs.jp/

No. 78
2023. 10. 16



第37回シンポジウムのお知らせ

第37回シンポジウム実行委員長
大阪医科薬科大学 伊藤 ゆり

日程:2023年11月10日(金)~12日(日)

開催形式:ハイブリッド

URL:<http://jcs.jp/conf/sympo37/>

2023年11月10~12日に宮崎県宮崎市でのフェニックス・シーガイア・リゾートにおきまして、第37回シンポジウムを開催することとなりました。宮崎には素敵な会場があるということで宮崎には縁もゆかりもない私が実行委員長を務めさせていただくこととなりましたが、訪問したり、調べたりする中で、宮崎の魅力を強く感じています。

2020年からのCOVID-19感染拡大に伴い、この数年の対面での交流に制限があり、産官学の交流を大切にす本学会の知的コミュニティ機能が低下してしつとありました。しかし、COVID-19感染症が5類となり、共存する社会へと変化するタイミングとなりました。遠方での開催ということもあり、参加者の利便性を考慮して対面およびオンラインのハイブリッドでの開催となっております。ご都合のつかれる方はぜひ宮崎にお越しいただき、大いに議論、交流をしていただければ幸いです。特に、日本計算機統計学会はこれまで学生を中心とした若手研究者の研鑽の場を提供してきたのが特徴です。若手研究者の皆様におかれましては研究発表の経験や企業、大学研究者との交流ができる機会ですので、奮ってご参加ください。

今回は「健康で安心して暮らせるまちづくりを支えるデータサイエンス」をテーマとし、まちづくりを支えるデータサイエンスの技術の一つであるGISの手法を学ぶチュートリアルセミナー(11/10)や災害に関するビッグデータ分析の特別講演(11/11 PM)、健康まちづくりの特別セッション(11/12 PM)、滋賀大学共催セッションと特別企画も盛りだくさんです。交通の便も良い立地で、美味しいお料理やお酒のある宮崎へぜひお越しください。

天岩戸神話の地である宮崎県は海の近い温暖な土地であ

りながら、日本の主要空港からの定期航空便が毎日複数飛んでいるなど実は交通の便も良く、計算機統計学の関連領域の人々によるコミュニティ再構築の機会になれば幸いです。

お問い合わせ先:

日本計算機統計学会第37回シンポジウム事務局
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内
E-Mail:sympo37@jcs.jp

第37回大会の報告

第37回大会実行委員長
札幌学院大学 中村 永友

今回の大会を形容すれば Compact & Unforgettable でしょうか。ほとんどの参加者が泊まれたホテルと会場、懇親会場、駅、飲食街、全てがほぼ5分以内で移動できるという、非常に恵まれた環境で開催できたのは、幸運なことでした。帯広市を選んだ経緯は、会場が駅に近い、多くのホテルが駅に近い、季節として非常に良い、北海道ではこれまでに4都市(札幌市、江別市、函館市、釧路市)で開催していますが、未開催であったためです。さらに帯広観光協会さんの様々なバックアップがあり大変恵まれておりました。懇親会場の手配、様々なアドバイス、会場建物の巨大な横断幕、このような大きな横断幕(横15m×縦1.2m、写真は帯広駅から会場のとちかちプラザの建物を撮ったもの)で歓迎を受けたことは、これまでの記憶の中では無かったかと思います。観光協会さんには多大なる感謝を申し上げます。

一般講演と学生研究発表は大変多くの方に参加していただき、活発な議論がされておりました。特別講演は、現在収まりつつある(?)新型コロナウイルスですが、これに対して統計学がどのような寄与をしてきたか、なぜ研究テーマとしたのかを、東京大学医科学研究所の井元清哉教授にお話を頂きました。さらに、現地帯広畜産大学の茅野光範准教授に、統計学者でありながら研究室でネズミ等を飼育され、生物と



数理・統計学の強固な結びつきのお話を提供いただきました。また、今回は初の試みで産官学連携委員会の発案として、学生への企業説明ランチョンセッションを初日のお昼休みに開催しました。データサイエンティストの卵と彼らの働き場所となり得る企業の接点を設けました。懇親会は残念ながら小雨の中での開催となりました。帯広名物の筆頭は豚丼ですが、そのほか北海道らしい料理やお酒、季節も提供できたかと思えます。終わり近くに雨が激しくなり散会いたしました。テントの中で濃密な会話が出来たものと思えます。その意味でも unforgettable な懇親会でした！

参加者と講演数は以下の通りです。参加者：現地 134 名、オンライン 29 名、併せて 163 名。セッション講演：一般 30 件、学生研究発表 21 件、特別講演 2 件、特別セッション 3 件、ソフトウェア・デモセッション 2 件、学生への企業説明ランチョン。

学会賞受賞者より

学会賞を受賞された方よりコメントを頂きましたので、ご紹介いたします。

「学会賞」を受賞して

シミック株式会社 大石 雅彦

この度は、栄誉ある日本計算機統計学会賞を授与いただき、心から感謝申し上げます。これもひとえに、会員の皆様方にこれまでご支援ご指導いただきましたお陰と思っております。山本会長を始め会員の皆様方に厚く御礼申し上げます。

推薦理由の一つに挙げていただきました若手セミナーも回を重ねて開催され、学生及び若手研究者にとっての良き研鑽の場となり、学会及び計算機統計学の発展に微力ながら貢献できているのではないかと思います。

本学会では若手セミナーを開催する前から、学生研究発表セッション・学生研究発表賞を設けるなどして学生の研究を積極的にサポートしてきました。一方で、大会・シンポジウム

のプログラムの枠内では時間の制約もあり、せっかく学生の皆さんが 1 年、2 年かけて研究した成果を学会の場で発表しているのに十分な質疑応答の時間が取れず、申し訳ないという気持ちとともに、もっと時間をかけて研究内容について議論する場があればと思っておりました。また、研究はそれぞれの研究室単位で行われていますが、同じ計算機統計学の領域の研究ですので、似たような領域に詳しい他大学の学生さんから、新たな視点で、質問を受けたりアドバイスをもらったりすることで、きっと研究の質を高められるのではないかと感じていました。研究室の枠を超えた他流試合のような場の提供です。このような二つの視点から、合宿形式で十分な時間を取ってお互いに自分の研究内容を紹介して議論する大学合同のセミナー合宿のようなものができないかと漠然と考えておりました。

その後、2017 年の会長就任とともに、このアイデアを酒折先生始め若手奨励理事の先生方と共有し、若手セミナーという名前で合宿形式の合同セミナーを始めることができました。今年で 7 回目となりましたが、これもこれまでに若手セミナーの開催にご尽力いただきました若手奨励理事の先生方、また、参加された学生・若手研究者の皆さん、セミナーでご指導いただきました先生方のご協力の賜物と思っております。この場をお借りして感謝申し上げます。

ところで、本学会は、懇親会にも力を入れており、初めて参加された方が、一升瓶が飛び交うような懇親会の盛り上がりには驚かされていたこともあります。毎回美味しいお酒とその土地ならではの料理を楽しむ中で、参加者同士の会話も弾み、それを契機として研究の話もじっくりできるようになるのではないかと思います。同じように、若手セミナーも研究室の垣根を越えて同じ釜の飯を食い遠慮なく議論することで、研究のアイデア・きっかけが生まれるのではないのでしょうか。ぜひ、今後とも学生、若手研究者の皆さんにこのセミナーを大いに活用していただき、研究の発展につなげていっていただきたいと願っております。

「論文賞」を受賞して

東京理科大学 清水 康希

この度は、論文賞という名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。学会員の皆様、学会賞の審査委員会をはじめとする関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。また、共著者であり、学生時代からの恩師である橋口博樹先生からは、多大なるご助言、ご指導を賜りました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今回受賞の対象となりました論文は、多変量分散分析の代表的な統計量であるRoyの最大固有値統計量の対立仮説のもとでの分布に関するものです。対立仮説のもとでの統計量の近似分布は、次元が大きい場合の近似精度に問題があることが知られています。受賞論文では精密分布に焦点を当て、特に対立仮説を限定することで次元が大きい場合でも効率的に計算できる計算法を提案しました。これまで私は、変数の数がサンプルサイズを上回る場合の特異な共分散行列の固有値分布に焦点を当て研究を行ってきました。本論文は、これまでの研究の延長にあるものであり、学生時代に書いた最後の論文としての成果でありました。関連する特異分布論の論文も併せて高く評価していただき、非常に嬉しく思っております。

研究者としてはスタートラインに立ったばかりであり、まだまだ未熟ではありますが、今回の受賞を励みに日本計算機統計学会のさらなる発展のために貢献できるよう、努力する所存です。日々研鑽を重ね、楽しく研究を続けていきたいと思っております。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

「奨励賞」を受賞して

中国学園大学 梶西 将司

この度は、奨励賞という名誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。この賞の選考に携わっていただきました委員の先生方、学会員の皆様に深く御礼申し上げます。今回、私が受賞することができましたのも、共著者でもある栗原考次先生(京都女子大学)、石岡文生先生(岡山大学)より熱心なご指導とご助言をいただいた結果と存じます。ここに心からの感謝を申し上げます。

今回の受賞に繋がりました論文は、「Echelon 解析を用いた空間データ構造の定量的な評価」に関するものです。この研究は、博士後期課程の段階からスタートしましたが、先行研究が少ないこともあり、研究に費やした期間の多くは、手探りの状態でした。指導して下さった先生方やゼミの後輩から貴重な意見をいただきながら日々コツコツと研究を重ね、何とか論文として形にすることができました。まだまだ力不足ではありますが、研究の成果をこのような形で評価していただいたことに感謝するとともに、この受賞を励みに、研究分野の発展並びに日本計算機統計学会の発展に少しでも貢献できるよう日々精進を重ね、研究活動に取り組んで参りたいと思っております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

この度は誠にありがとうございました。

「奨励賞」を受賞して

大阪大学 新村 亮介

この度は奨励賞という名誉ある賞を賜り、大変光栄に思います。受賞にあたり、選出していただいた委員の先生方をはじめ、学会員の皆様に心より御礼申し上げます。また、このような賞を受賞することができましたのも、共著者である大阪大学の鈴木讓教授から、熱心にご指導いただいたおかげです。コロナ禍にもかかわらず変わらぬサポートをして下さった鈴木教授に深く御礼申し上げます。

受賞対象となった論文は、スパース推定を効率的に行うための最適化手法を提案しています。スパース推定は、変数選択とモデルの学習を同時に行い、最適化手法として近接勾配法や交互方向乗数法(ADMM)と呼ばれる方法が使用されることが多いです。しかし、ADMMは一部の問題で逆行列の演算が必要となり、計算コストが高く、特に高次元のデータに対しては効率が低下してしまいます。今回の論文では、ADMMを近接勾配法に変換することで効率的に解を求める方法を提案しています。その結果、数値実験でスパース推定問題に適用し、高速に解が得られることを示しています。さらに、近接勾配法は損失関数の導関数のみを用いるため、提案手法を適用することで実装がしやすくなり、幅広い問題に適用できると思います。

今回の受賞を励みに、日本計算機統計学会の発展に貢献できるよう、今まで以上に精進を重ね、研究を進めて参りたいと思っております。この度は誠にありがとうございました。

フェロー認定者より

日本計算機統計学会フェローに1名の先生が認定されました。認定された方よりコメントを頂きましたのでご紹介いたします。

日本計算機統計学会フェローの称号をいただいて

株式会社セルネサイエンス 篠津 和夫

この度は、本学会の名誉あるフェローの称号を授与していただきまして、とても光栄に存じております。本学会の会長・副会長、ご推薦いただきました方々、フェローの審査会の皆様、そして、これまでにお世話になりました会員に厚く御礼申し上げます。

私が本学会に最初に参加したのは、当時の会社の上司であった新村秀一元成蹊大学教授に誘われたことから始まりま

す。当時在籍していた会社は、住商情報システム株式会社（現SCSK株式会社）で、私の記憶では、IBM汎用機に統計パッケージの SAS を導入した日本で最初の会社だったかと記憶しています。会社自体がシステム会社であったことから、統計パッケージには当時からエンジニア、および営業担当者として関わっており、SAS 以外にも SPSS, Statistica, LINDO などを扱っておりました。

本学会にも、正会員としてだけでなく、企業の賛助会員として、大会、シンポジウムの協賛、または、シンポジウムの事務局として協力させていただきました。今回のフェローの授与につきましては、これらを総合的に評価されて授与されたものだと思っております。

今後は、ますます、データサイエンスのニーズがアカデミアだけでなく、産業界においても更に高まってくることが予想されておりますので、特に本学会の目的でもある、統計学を重要な社会的寄与となるよう、微力ながらこれからも貢献していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

この度の授与につきまして、改めて感謝申し上げます。

学生研究発表賞受賞者より

第 37 回大会で学生研究発表賞を受賞された方よりコメントを頂きましたので、ご紹介いたします。

「学生研究発表賞」を受賞して

同志社大学大学院文化情報学研究所 稗田 涼真

この度は、日本計算機統計学会第 37 回大会にて、学生研究発表賞を頂戴し、大変光栄に存じます。本大会の開催にあたり、企画・運営に携わっていただいた方々および審査いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。また、日頃より熱心かつ丁寧にご指導いただいている宿久先生、谷岡先生、柚木先輩をはじめ、統計科学研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。

本大会にて、私は「ロバスト縮小ランク回帰に基づく複数アウトカムに対する処置効果の推定法について」という演題で発表を行いました。本研究では、複数のアウトカムに対して処置効果を推定しつつ、処置が有効なサブグループを特定することを目的としています。しかし、既存手法では観測データに外れ値が含まれる場合やアウトカム間の相関が高い場合に処置効果を正しく処置効果を推定できない可能性があります。そこで、本研究では、ロバスト縮小ランク回帰に基づいた処置効果の推定法を提案し、提案手法が既存手法よ

り性能が良いことを数値実験及び実データ適用を通して確認しました。

今回伝統のある日本計算機統計学会に参加し、発表を行ったこと及び他大学の学生や先生方々の発表を拝聴したことで得られた学びはとて大きく、大変有意義な時間を過ごすことができました。また、私は学生への企業説明ランチョンや懇親会などの企画にも参加させていただきました。コロナ禍の影響でこれまで、このような他大学の学生や企業の方々と交流する機会が少なかつたため、今回このような企画に参加できたことはとても刺激になりました。今回の受賞を励みにより一層精進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

「学生研究発表賞」を受賞して

名古屋大学医学部医学科 守田 悠彦

この度は学生研究発表賞という栄誉ある賞を頂き、大変光栄に感じております。関係者の皆様にお礼申し上げます。

非侵襲の深部組織の生体イメージングを可能にする 2 光子顕微鏡はミクログリアの生体内観察や大脳深部の神経細胞の観察等に用いられてきました。しかし、2 光子顕微鏡の 3 次元画像は深さ方向にぼやけがあり、2 光子顕微鏡を用いて撮影したミクログリアや神経軸索の 3 次元構造の復元や評価は難しいものでした。この問題に対応するため、我々は 2 光子顕微鏡の画像の深さ方向ぼやけ除去と高解像度化を少ないハイパーパラメータ数で実現する深層ニューラルネットワークを提案しました。シミュレーション画像と実際の画像を用いた実験でモデルによるぼやけ除去と高解像度化を行った結果、モデルが細胞の形状の正確な評価や鮮明な画像の取得に有用であることが示唆されました。

今回の受賞を励みに、また頂いた助言を糧に研究を進めていく所存です。今後とも、ご指導のほどよろしくお願い致します。

「学生研究発表賞」を受賞して

名古屋大学医学部医学科 野村 怜史

この度は、日本計算機統計学会第 37 回大会にて学生研究発表賞という栄誉ある賞を頂戴し、大変光栄に存じます。審査頂いた先生方をはじめ、本大会を運営くださった関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。また、平素より活発なディスカッション及びご指導をいただいている指導教員の小嶋泰弘先生、島村徹平先生をはじめ、研究室の皆様にご深く感謝申し上げます。

今回、私は「混合エキスパート変分オートエンコーダによるクロマチンアクセシビリティダイナミクスの推定」というタイトルで発表させていただきました。生命科学の分野では、シングルセルマルチオミクスと呼ばれる、単一細胞から複数モダリティを同時に計測することが可能な技術の開発が進んでいます。しかしながら、計測時に細胞を壊してしまうため、得られるデータが一時刻におけるスナップショットとなってしまうという課題があります。この問題を解決するため、遺伝子発現の転写調節の過程に対して数理モデルを仮定することで、遺伝子発現レベルの時間変化を推定する方法は提案されていますが、その他のモダリティにおける時間変化を推定することは困難な課題でした。本研究では、混合エキスパート変分オートエンコーダと呼ばれる枠組みを拡張することで、他モダリティにおける時間変化の推定を可能とする深層生成モデルを提案いたしました。細胞内のクロマチン構造によるDNA 配列への分子アクセス性(クロマチンアクセシビリティ)を対象モダリティとし、本モデルにより時間変化の推定が正しく行えていること、そして推定された時間変化を活用することでモダリティ間のタイムラグを定量化できること、を示しました。

今回の受賞を励みとし、より一層研究に精進していく所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

名古屋大学大学院医学系研究科 日比 太智

この度は、日本計算機統計学会第 37 回大会において、学生発表賞を受賞できたことを心から嬉しく思います。審査員の皆様や大会の運営に携わっていただいた皆様に、心から感謝申し上げます。また、いつもご指導いただいている国立がん研究センター研究所の小嶋泰弘先生、東京医科歯科大学難治疾患研究所計算システム生物学研究室の島村徹平先生をはじめとする尊敬する先生方、名古屋大学医学部システム生物学研究室の皆様、深く感謝申し上げます。

今回は、「腫瘍内クローン構造とエピゲノム不均一性の連関を読み解く深層生成モデルの開発」と題して発表いたしました。腫瘍内に存在するクローンはそれぞれ異なる性質を持つ可能性が考えられますが、クローンはその性質を考慮せずに決定されてしまいます。そこで我々は、各細胞のエピゲノム情報と遺伝子変異情報を用いた、単一細胞レベルのクローン推定手法を提案しました。多次元のエピゲノム情報を特徴づけ、変異情報と結びつけるために、変分自己符号化器

(VAE)を応用したモデルを使用し、クローン特有な細胞の性質を特定しました。今後は、クローン非特異的な細胞の性質との関係を明らかにする研究へ展開していきます。

今回の受賞を励みとして、より一層精進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひいたします。

「学生研究発表賞」を受賞して

九州大学大学院数理学府 岡崎 彰良

この度は、日本計算機統計学会第 37 回大会において学生研究発表賞を頂き、大変光栄に思います。本大会を企画運営してくださった先生方、発表審査を行ってくださった審査員の皆様に深く御礼申し上げます。また、平素より熱心にご指導して頂いている川野秀一先生に心より感謝申し上げます。

本発表では「凸クラスタリングによるマルチタスク学習回帰モデル」という題目で発表させていただきました。この研究では、複数の回帰モデルの同時推定を行う際にネットワーク lasso 正則化を用いた場合、無関係のモデルを類似させてしまう欠点に着目しました。これは、ネットワーク lasso 正則化が凸関数であることから生じる限界であり、最適化問題の凸性を維持しつつ、上記の欠点を解消することが課題でした。これに対し本研究では、回帰係数として用いるパラメータとモデル間の類似性を表すパラメータを分離し、それらを同時に推定する最適化問題を提案しました。この手法は、複数の回帰モデルの推定と回帰係数に対する凸クラスタリングを同時に実行する方法として見なすことができ、推定された回帰モデルの解釈も容易です。数値実験と実データへの適用による検証では、その両方において既存手法を上回る推定精度を確認することができました。

今回の受賞は自身の研究活動への大きな励みになりました。今後とも有意義な研究活動を行うため、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

同志社大学大学院文化情報学研究科 井上 聖士

この度は、日本計算機統計学会第 37 回大会にて、学生研究発表賞を頂戴し、大変光栄に存じます。本大会の開催にあたり、企画・運営に携わっていただいた方々および審査いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。また、日頃より熱心かつ丁寧にご指導いただいている宿久先生、柚木先輩をはじめ、統計科学研究室の皆様、心より感謝申し上げます。

本大会にて、私は「pcLasso を用いた重み付き sJIVE によるマルチビューデータ解析法の提案」という演題で発表を行いました。本研究では、教師ありマルチビューデータを教師あり次元縮約と未知のアウトカムの予測を逐次的に行う手法に着目しました。しかし、既存手法では次元縮約と予測の段階のどちらにおいても、精度が悪化する状況があることがわかっています。そこで、本研究では、まず次元縮約の段階においては Lasso (Tibshirani, 1996) によるスパース推定を用いたアルゴリズムを提案し、次に、予測の段階においては pcLasso (Tay et al., 2021) における特異値に基づいた回帰係数への重み付けを用いたアルゴリズムを提案しました。提案手法により、特定の状況において次元縮約と予測の精度が既存手法よりも良いことが数値実験を通して確認しました。

今回の受賞を励みとし、より一層の努力を重ね、日々精進していきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

横浜国立大学大学院理工学府 西澤 透

この度は、日本計算機統計学会第 37 回大会にて学生研究発表賞を頂きまして、大変光栄に存じます。また、審査をして頂いた先生方をはじめ、本大会の開催に携わってくださった皆様に心より御礼申し上げます。そして、日頃より指導を賜っている黒木学先生に心から感謝申し上げます。

本発表では、回帰分析における多重共線性問題に焦点を当てました。この問題を解決するために、統計的な制約を課さないフルモデルと選択された説明変数に対して、その説明変数の集合が目的変数と統計的に独立ではなく、かつ説明変数の要素同士は互いに独立であるという制約を課したモデルの間のカルバック・ライブラー情報量に着目し、「情報論的予測型主変数選択規準」として 3 種類の変数選択規準を提案しました。情報論的予測型主変数選択基準は、統計的仮説検定や主観的判断に基づかない停止則を持ちます。また、実データへの応用をとおして、情報論的予測型主変数選択基準が多重共線性の問題と予測精度の両方を考慮した説明変数の選択を可能にすることを示しました。

この度の学生研究発表賞の受賞は私の研究活動において大きな励みとなりました。この受賞を契機として今後も研究に一層励む所存ですので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

学会からのお知らせ

日本計算機統計学会 2023 年度 第 1 回 理事会議事録

■議長: 山本 義郎(会長, 東海大学)

■日時: 2023 年 4 月 15 日(土) 15:00~17:00

■場所: 同志社大学東京サテライト・キャンパス会議室 及び Zoom のハイブリッド開催

■出席者 (敬称略, 会長・副会長以外は五十音順):

山本義郎(会長:議長)

宿久洋, 渡辺敏彦, 河合統介(副会長),

足立浩平, 阿部貴行, 飯塚誠也, 石岡文生, 五十川直樹,

伊藤ゆり, 大石雅彦, 大草孝介, 大槻成章, 岡田謙介,

小木しのぶ, 小田牧子, 川崎玉恵, 栗原考次, 酒折文武,

坂本亘, 桜井裕仁, 下川敏雄, 杉本知之, 高岸茉莉子,

竹内光悦, 谷岡健資, 土田潤, 富田誠, 中村智洋,

中村永友, 橋口博樹, 藤澤正樹, 藤野友和, 丸尾和司,

水田正弘, 光廣正基, 南弘征, 山田隆行, 山本由和

■委任状提出:

栗林和彦, 小泉和之, 永久保太士, 弘新太郎, 村上秀俊,

山本紘司, 米山昭成

●定足数の確認等

理事会定足数 46 名(3 分の 2 以上の出席)に対し、出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

●報告事項 (2022 年度分)

◆1. 2022 年度事業報告・業務報告について

大草 21-22 年度庶務理事より、2022 年度事業報告・業務報告について説明が行われた。

◆2. 2022 年度決算報告について

土田 21-22 年度会計理事より、2022 年度決算報告について説明が行われた。

◆3. 2022 年度監査報告について

大草 21-22 年度庶務理事より、2023 年 3 月 8 日に行われた 2023 年度監査について報告が行われた。

●審議事項

◆1. 会員の異動等について

大草 庶務理事より、会員の異動状況について報告があり、原案の通り承認された。入会直後に退会する会員への対応については、今後議論を行うものとした。

◆2. 2023 年度事業計画(案)について

大草 庶務理事より、2023 年度事業計画(案)について説明があり、審議の結果、原案通り承認され、評議員会に上程す

ることとなった。

◆3. 2023 年度予算(案)について

石岡 会計理事より、2023 年度予算(案)について説明がなされた。審議の結果、原案通り承認され、評議員会に上程することとなった。

◆4. 第 38 回 (2024 年度)大会について

山本 会長より、第 38 回大会を 2024 年に永久保 実行委員長により開催する旨の提案があり、審議の結果承認された。また、永久保実行委員長の企画(大会担当)理事が承認された。

◆5. 産官学参画強化委員会の設置について

小木 産官学連携理事より、委員会の設置について報告があり、名称を「産官学連携委員会」として設置することが審議の結果、承認された。

◆6. 学会の法人化について

山本 会長より学会の法人化について提案がなされ、審議の結果、承認された。法人化に伴う課題などについては継続議論することとなった。

◆7. フェローの認定について

宿久 副会長(フェロー審査委員会委員長)より、フェロー候補者の紹介がなされ、審議の結果、次の 1 名にフェローの称号を授与することを認定した。

篠津和夫 氏(株式会社アツリーフ)

◆8. その他

特になし。

●報告事項

◆1. 和文誌について

富田 和文誌編集理事より、和文誌の編集状況について現在の投稿状況や今後募集予定の特集などについて報告が行われた。

◆2. 欧文誌について

橋口 欧文誌編集理事より、JJSD の編集状況について報告が行われた。

◆3. 広報活動について

谷岡 広報理事より、広報活動について報告が行われた。

◆4. 渉外活動について

竹内 渉外理事より、渉外活動について報告が行われた。

◆5. 産官学連携活動について

小木 産官学連携理事より、産官学連携活動の活動状況及び、今後の予定について報告が行われた。

◆6. 第 37 回大会・第 89 回評議員会について

中村 企画(大会担当)理事(同大会実行委員長)より、第 37 回

大会・第 89 回評議員会の準備状況について報告が行われた。

◆7. 第 37 回シンポジウムについて

伊藤 企画(シンポジウム担当)理事(同シンポジウム実行委員長)より、第 37 回シンポジウムの準備状況について報告が行われた。

◆8. 2023 年度計算機統計セミナーについて

阿部 企画理事より、今年度の理事内の役割分担と、計算機統計セミナーの活動予定について報告が行われた。

◆9. 2023 年度若手セミナーについて

杉本 若手奨励理事より、2023 年 9 月に三重県で開催される若手セミナーについて、準備状況について説明が行われた。

◆10. 2023 年度統計関連学会連合大会について

山本 会長より、2023 年度連合大会の開催日程等について説明が行われた。併せて、杉本 プログラム委員より本学会からの企画セッションの内容について、報告が行われた。

◆11. 2022 年度学会賞について

宿久 副会長(学会賞審査委員会委員長)より、2022 年度学会賞を以下の通り授与することとなった旨、報告が行われた。

[日本計算機統計学会賞] 大石雅彦 氏(シミック株式会社)

[優秀賞] なし

[論文賞] 清水康希 氏(東京理科大学)

橋口博樹 氏(東京理科大学)

[ソフトウェア賞] なし

[奨励賞] 梶西将司 氏(中国学園大学)

新村亮介 氏(大阪大学)

[貢献賞] なし

◆12. その他

2023 年 12 月にオーストラリアで開催される IASC-ARS2023 について、森 IASC-ARS2023 Organising Committee 委員より開催形式などについて報告がなされた。

日本計算機統計学会 第 89 回(2023 年度, 第 1 回)評議員会議事録

■議長:山本 義郎(会長, 東海大学)

■日時:6 月 1 日(木)15:30~17:30

■場所:とちぎプラザ および Zoom でのハイブリッド開催

■出席者(敬称略, 会長・副会長以外は五十音順):

山本義郎(会長・議長)

河合統介, 宿久洋, 渡辺敏彦(副会長)

足立浩平, 阿部貴行, 飯塚誠也, 石岡文生, 石橋雄一, 大石雅彦, 大草孝介, 小木しのぶ, 鎌倉稔成, 坂本亘, 佐藤耕一, 塩谷順彦, 下川敏雄, 杉本知之, 瀬尾隆, 竹内光悦, 道家暎幸, 富田誠, 中川重和, 橋口博樹, 藤澤正樹, 藤野友和, 丸尾和司, 山縣清壯

■委任状提出:

岡田謙介, 久保田貴文, 栗原考次, 篠津和夫, 田澤司, 米山昭成

■陪席理事・監事:

五十川直樹, 伊藤ゆり, 大槻成章, 小田牧子, 清見文明, 桜井裕仁, 高岸茉莉子, 谷岡健資, 土田潤, 中村永友, 中村智洋, 永久保太士, 光廣正基, 南弘征, 森裕一, 山本由和

●定足数の確認等

評議員会定足数 34 名(半数以上の出席)に対し, 出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

●審議事項(2022 年度分)

◆1. 2022 年度事業報告・業務報告について

大草 庶務理事より, 2022 年度事業報告・業務報告について説明が行われた。

◆2. 2022 年度決算報告について

土田 21-22 年度会計理事より, 2022 年度決算報告について説明が行われた。

◆3. 2022 年度監査報告について

南 監事より, 2023 年 3 月 8 日に行われた 2023 年度監査について報告が行われた。

●報告事項

◆1. 2023 年度第 1 回理事会について

山本 会長より, 2023 年 4 月 15 日に行われた第 1 回理事会について報告が行われた。

◆2. 会員の異動について

大草 庶務理事より, 会員の異動状況について報告が行われた。

◆3. 和文誌について

富田 和文誌編集理事より, 和文誌の編集状況について現在の投稿状況や今後募集予定の特集などについて報告が行われた。

◆4. 欧文誌・JJSD について

橋口 欧文誌編集理事より, JJSD の編集状況について報告が行われた。

◆5. 広報活動について

谷岡 広報理事より, 広報活動について報告が行われた。

◆6. 渉外活動について

桜井 渉外理事より, 渉外活動について報告が行われた。

◆7. 産官学連携活動について

小木 産官学連携理事より, 産官学連携活動の活動状況及び, 今後の予定について報告が行われた。

◆8. 第 37 回シンポジウムについて

伊藤 企画(シンポジウム担当)理事(同シンポジウム実行委員長)より, 第 37 回シンポジウムの準備状況について報告が行われた。

◆9. 2023 年度計算機統計セミナーについて

阿部 企画理事より, 今年度の理事内の役割分担と, 計算機統計セミナーの活動予定について報告が行われた。

◆10. 若手セミナーについて

杉本 若手奨励理事より, 2023 年 9 月に三重県で開催される若手セミナーについて, 準備状況について説明が行われた。

◆11. 2022 年度学会賞について

宿久 副会長(学会賞審査委員会委員長)より, 2022 年度学会賞を以下の通り授与することとなった旨, 報告が行われた。

[日本計算機統計学会賞] 大石雅彦 氏(シミック株式会社)

[優秀賞] なし

[論文賞] 清水康希 氏(東京理科大学)

橋口博樹 氏(東京理科大学)

[ソフトウェア賞] なし

[奨励賞] 梶西将司 氏(中国学園大学)

新村亮介 氏(大阪大学)

[貢献賞] なし

◆12. フェローの認定について

宿久 副会長(フェロー審査委員会委員長)より, 次の 1 名にフェローの称号を授与することを認定した旨, 報告がなされた。

篠津和夫 氏(株式会社アットリーフ)

◆13. 統計関連学会連合理事会からの報告ならびに 2023 年度統計関連学会連合大会について

山本 会長より, 2023 年度連合大会の開催日程等について説明が行われた。併せて, 本学会からの企画セッションの内容について報告が行われた。

◆14. その他

特になし。

●審議事項

◆1. 会費長期未納会員への対応について

大草 庶務理事より、報告がなされ、審議の結果承認された。

◆2. 2023 年度事業計画(案)について

大草 庶務理事より、事業計画(案)について報告が行われ、審議の結果承認された。

◆3. スタディー・グループについて

大草 庶務理事より、スタディー・グループについて報告がなされ、審議の結果承認された。今年度は継続 1 件・新規 1 件の計 2 件となる。

◆4. 2023 年度予算(案)について

石岡 会計理事より、2023 年度予算(案)について報告がなされ、審議の結果承認された。

◆5. 第 38 回(2024 年度)大会・第 38 回総会について

山本 会長・永久保 企画理事(大会担当)より、第 38 回大会を 2024 年に永久保 実行委員長により 5/24(金)-25(土)に山形市やまぎん県民ホール(総会は 5/24)で開催を予定している旨報告がなされ、審議の結果承認された。

◆6. 学会の法人化について

山本 会長より、学会の法人化について報告がなされ、審議の結果承認された。審議にあたり、会計・税務処理の明確化、法人化に関するスケジュール、法人の意思決定プロセスについてコメントがなされた。

◆7. 第 37 回総会について

大草 庶務理事より、第 37 回総会の議事内容について報告がなされ、審議の結果承認された。

◆8. 名誉会員の推薦について

大草 庶務理事より、名誉会員の推薦について報告がなされ、審議の結果、次の 1 名に名誉会員の称号を授与することを認定した。

道家暎幸 氏(東海大学)

◆9. その他

・会報等の電子化について

小木 評議員より、他学会で会報などを電子化する傾向にあるが、それに伴い企業側の広告出稿が控えられる可能性がある旨、報告がなされた。

・The 8th Japanese-German Symposium on Classification(第 8 回日独分類シンポジウム)

南 第 8 回日独分類シンポジウム実行委員会委員長より、第 8 回日独分類シンポジウムの概要について報告がなされた。

日本計算機統計学会は後援。

●連絡事項

◆1. 第 37 回大会について

中村 第 37 回大会実行委員会委員長より、第 37 回大会準備状況などについて報告がなされた。

◆2. その他

特になし。

日本計算機統計学会 第 37 回総会議事録

■日時:6 月 2 日(金) 15:50~17:30

■場所:とちかちプラザおよびオンラインのハイブリッドにより実施

●議長選出

石橋雄一 氏(株式会社スタットラボ)が議長として選出された。

●会長挨拶

山本義郎 23-24 年度会長より挨拶が行われた。

■議事

■審議事項

◆1. 2022 年度事業報告

渡辺 副会長より、2022 年度事業報告について説明が行われた。

◆2. 2022 年度決算報告

石岡 会計理事より、2022 年度決算報告について説明が行われた。

◆3. 2022 年度理事の業務監査および会計監査報告

南 監事より、2023 年 3 月 8 日に行われた 2023 年度監査について報告が行われた。

上記議事 1-3 について審議の結果承認された。

◆4. 理事会・評議員会報告

山本 会長より、理事会・評議員会について、理事会は 2022/4/15、ネット理事会は 2022/10/30、評議員会は第 87 回を 2022/11/25、第 88 回を 2022/11/28、第 89 回を 2023/6/1 にそれぞれ開催した旨、報告がなされた。

◆5. 2023 年度事業計画(理事の承認を含む)

渡辺 副会長より、2023 年度事業計画および新たな理事の就任について説明が行われ、審議の結果、承認された。

◆6. 2023 年度予算案

石岡 会計理事より、2023 年度予算案について説明が行われ、審議の結果承認された。

◆7. 2024 年度(第 38 回)総会の開催地の決定

河合 副会長より、第 38 回総会を 2024 年に開催予定の日本計算機統計学会第 38 回大会中に実施する旨説明がなされ、審議の結果承認された。なお第 38 回大会は 5/24(金)-25(土)

に山形市やまぎん県民ホールで開催予定。

◆8. 学会の法人化について

山本 会長より、学会の法人化について報告がなされ、審議の結果承認された。審議にあたり、大会開催時期などを考慮に入れた会計年度の設定についてコメントがなされた。

◆9. 名誉会員の推薦について

大草 庶務理事より名誉会員の推薦について報告がなされ、審議の結果、次の1名に名誉会員の称号を授与することを認定した。

道家映幸 氏(東海大学)

■報告事項

◆1. 和文誌編集委員会報告

富田 和文誌編集理事より、和文誌の編集状況について現在の投稿状況や今後募集予定の特集などについて報告が行われた。

◆2. 欧文誌(JJSD)報告

橋口 欧文誌編集理事より、JJSD の編集状況について報告が行われた。

◆3. 広報委員会報告

谷岡 広報理事より、広報活動について報告が行われた。

◆4. 渉外活動報告

桜井 渉外理事より、渉外活動について報告が行われた。

◆5. 産官学連携活動報告

小木 産官学連携理事より、産官学連携活動の活動状況及び、今後の予定について報告が行われた。

◆6. 第37回シンポジウムについて

伊藤 企画(シンポジウム担当)理事(同シンポジウム実行委員長)より、第37回シンポジウムの準備状況について報告が行われた。

◆7. 2023年度計算機統計セミナーについて

阿部 企画理事より、今年度の理事内の役割分担と、計算機統計セミナーの活動予定について報告が行われた。

◆8. 若手セミナーについて

杉本 若手奨励理事より、2023年9月に三重県で開催される若手セミナーについて、準備状況について説明が行われた。

◆9. スタディー・グループについて

大草 庶務理事より、スタディー・グループについて報告がなされた。今年度は継続1件・新規1件の計2件となる。

◆10. 学会賞審査委員会報告

宿久 副会長(学会賞審査委員会委員長)より、2022年度学会賞を以下の通り授与することとなった旨、報告が行われ

た。

[日本計算機統計学会賞] 大石雅彦 氏(シミック株式会社)

[優秀賞] なし

[論文賞] 清水康希 氏(東京理科大学)

橋口博樹 氏(東京理科大学)

[ソフトウェア賞] なし

[奨励賞] 梶西将司 氏(中国学園大学)

新村亮介 氏(大阪大学)

[貢献賞] なし

◆11. フェロー審査委員会報告

宿久 副会長(フェロー審査委員会委員長)より、次の1名にフェローの称号を授与することを認定した旨、報告がなされた。

篠津和夫 氏(株式会社アットリーフ)

◆12. その他

・The 8th Japanese-German Symposium on Classification(第8回日独分類シンポジウム)

南 第8回日独分類シンポジウム実行委員会委員長より、第8回日独分類シンポジウムの概要について報告がなされた。

日本計算機統計学会は後援。

新入会員(敬称略, 申請日順)

【正会員】

【学生会員】

【賛助会員】

都築電気株式会社
塩野義製薬株式会社

現会員数(令和5年4月3日現在)

正会員数(国内・海外)	488
学生会員	63
賛助会員	23
団体会員	1
合計	575

学会・研究会のお知らせ**【開催予定一覧】****【国内】****・日本計算機統計学会 第37回シンポジウム**

会場: フェニックス・シーガイア・リゾート(宮崎県宮崎市)
+ オンライン(ハイブリッド開催)

日程: 2023年11月10日(金)~12日(日)

<http://jscs.jp/conf/sympo37/>

【国外】**・IASC-ARS 2023**

会場: Macquarie University in New South Wales, Australia

日程: 2023年12月6日(水)~8日(金)

<https://iascars2023.netlify.app/>

・The 16th International Conference of the ERCIM WG on Computational and Methodological Statistics (CMStatistics 2023)

会場: HTW Berlin, University of Applied Sciences, Berlin, Germany + online (hybrid)

日程: 2023年12月16日(土)~18日(月)

<http://www.cmstatistics.org/CMStatistics2023/>

・26th International Conference on Computational Statistics (Compstat 2024)

会場: University of Giessen, Giessen, Germany
+ online (hybrid)

日程: 2024年8月27日(火)~30日(金)

<http://www.compstat2024.org/>

◆2023年度計算機統計セミナー開催のお知らせ

以下のように2回の計算機統計セミナーを計画中です。詳細が決まりましたらメールニュースやHP等でご案内いたします。

・「異質性治療効果を推定するための統計手法(仮)」

日時: 検討中

講師: 下川 敏雄 先生(和歌山県立医科大学)

・「大規模データの探索的データ解析と再現可能研究」

日時: 12月中の開催を予定

実施形態: Zoom (Web会議システム) を利用した実施

講師: 地道 正行 先生(関西学院大学)

内容: 本セミナーでは、データ解析環境Rを利用して、大規模データの探索的データ解析を目的とした前処理とデータラングリング、再現可能研究のための動的文書生成について具体的に紹介する。

広報委員会からのお知らせ**◆ニューズレターでの広告掲載について**

本ニューズレターでは広告の掲載を募集しております。広告掲載をご希望の会員は、渉外理事(shougai@jscs.or.jp)までお問い合わせください。また、ニューズレター以外の媒体のうち、学会ウェブページ(<https://jscs.jp/>)のバナー広告、和文誌、計算機統計セミナー関連の広告掲載に関するお申し込み・お問い合わせも、上記のE-mail アドレスにて随時受け付けています。

なお、大会およびシンポジウム関連の広告掲載については、それぞれの実行委員会にご連絡をお願いいたします。

事務局からのお知らせ**◆会費納入のお願い**

会費のお支払いは、下記の口座への振り込みのほか、クレ

ジットカード払いも可能です。詳細は会費振込用紙と一緒に
お送りした「会費納入のお願い」をご覧ください。会費の納入
が滞ると学会運営に大きく影響しますので、忘れずに納入し
ていただきますようお願いいたします。

なお、複数年にわたって滞納されますと、評議員会の議を
経て除名されることがありますので、ご注意ください。

【口座名義両方とも】日本計算機統計学会
《ゆうちょ銀行》口座番号:00180-0-537374
《銀行》三菱UFJ銀行 青山支店
普通口座: 5284324

◆高齢者会員の会費割引について

本会では、主として退職された会員を対象に会費割引の制
度を設けています。

(1) 60歳の誕生日を過ぎていること

(2) 会誌(和文誌・欧文誌)の配布を希望しないこと

の両方を満たす場合、お申出により会費が割引(7,000円→
2,000円)となります。会費割引には評議員会での承認が必要
となりますので、ご希望の会員はお早めに事務局にお申
出ください。

◆2023年度の新入会員の特典について

2023年度に学生会員または賛助会員として新規に入会さ
れた新入会員は、入会特典を受けることができます。統計科
学に関する研究を行っている学生の方がお近くにいらっしや
いましたら、ぜひこの機会に入会をお誘いください。

また、学会では賛助会員のために様々な形で計算機統計
学に関する情報の提供・交換の場を設けています。会員の
皆様には、統計科学とその周辺領域、コンピュータなどに関
係のある企業・団体をお誘い、あるいはご紹介くださいますよ
うお願いいたします。

入会特典の詳細につきましては、学会ウェブページの
<https://jcs.jp/入会のお誘い/新入会員特典>
をご覧ください。

◆会員情報の変更について

所属変更等をされた会員の方は、お手数とは存じますが、
学会への変更の届出を忘れずにお願います。届出を忘れ
ると郵便などによる学会からの連絡が届かなくなってしまう
ます。学生会員の方で今年就職をされた方は、今年度から
正会員となりますので、必ず新しい所属・連絡先をお知らせく

ださい。

会員情報に変更のある会員の方は、学会事務局
(office@jcs.or.jp)宛に電子メールで変更点をお知らせくだ
さい。

ご理解、ご協力をいただけますよう、お願い致します。

◆休会制度、種別変更猶予制度について

本会では、休会制度および種別変更猶予制度を設けてい
ます。

「休会制度」は、会員に特段の事情が認められる場合、理事
会の承認を経た上で、会員資格の停止とともに、会費を徴収
しないことができることとした制度です。

「種別変更猶予制度」は、学生会員が学生としての身分を失
い正会員に移行する際に、経済的事由などにより正会員とし
て学会に所属することが著しく困難であると理事会で認めら
れた場合、引き続き「学生会員」として所属できることとした制
度です。

本制度は、年度単位で適用されます。希望される会員は、
事務局までご照会ください。なお、本制度に関わる申し合わ
せは、

<https://jcs.jp/face/rules/kyukai.html>

からご覧いただけます。

広報委員会

(五十音順、*印は理事、+印は今号編集担当)

安藤 宗司+(東京理科大学)
石岡 文生(岡山大学)
大草 孝介(中央大学)
川崎 玉恵*(青山学院大学)
小泉 和之*(順天堂大学)
下川 朝有+(東京理科大学)
谷岡 健資*(同志社大学)
玉谷 充+(成城大学)
藤野 友和*(福岡女子大学)
南 弘征(北海道大学)
村上 秀俊(東京理科大学)
山本 由和(徳島文理大学)

日本計算機統計学会への入会のお誘い

日本計算機統計学会事務局

日本計算機統計学会では、随時新入会員を募集しております。会員の皆様の近隣で計算機統計学に興味のある方がいらっしゃいましたら是非入会をお勧めください。個人会員、賛助会員ともに入会いただくと、さまざまな特典があります。

2023年度の入会特典について

【対象期間】

2023年度（2023年1月1日～12月31日）

【対象者】

対象期間内に新規に学生会員または賛助会員として入会申込を行い、入会金・初年度年会費を納入した新入会員

（入会金・初年度年会費の納入が確認された時点で特典の権利が発生します）

※賛助会員には入会金はありません。

<学生会員になられる方への特典>

本会の大会またはシンポジウムに、1回に限り無料で参加することができます！

<賛助会員になられる企業・団体への特典>

学会発行の論文誌、講演報告集、ニューズレターなどに企業広告を廉価で載せることができます！

入会特典についての詳しい内容は学会ウェブページをご覧ください。

<https://jscs.jp/入会のお誘い/新入会員特典>

<お問合せ・連絡先>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F

(財)統計情報研究開発センター内 日本計算機統計学会事務局

TEL : 03-3234-7580 (平日 9:30~17:00)

FAX : 03-3234-7580

E-mail : office@jscs.or.jp

URL : <https://jscs.jp/>